

めだかの学校だより

平成 12 年 11 月 1 日
第 30 号

学舎：いなさ自然休養村
くつきくさ

事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第三十回校長 関 京子

平成 6 年 9 月、松田不秋さんのお話しで「めだかの学校」にお世話になり、まず驚いたことは、あらゆる分野のリーダー格の様な方々ばかりで何も知らない私が務まる所ではないとビビりました。でもその後の給食の時間で全然知らない方々から温かいお声をかけていただき、またお話しの内容が本当に実のある、また楽しいもので、何とも言えない素晴らしい雰囲気だったことを思い出します。

三遠南信自動車道も引佐町から鳳来町に進み、遠いと思われたのが全く苦にならず、三遠南信の交流も年々厚くなり、私達の組合だけではなく、私自身も過保護な程に大切にしていたき申し訳ないと思っています。こんな私のような者でも県境を越え、静岡県のマイスターとして名を出して下さっている例は他にはないと、どこへ行ってと言われます。それだけに私に出来るだけのことをさせてい



ただこうと静岡県の情報を行った先で、またこちらの情報もとプラカードを背負って歩いています。思いがけないご好意に甘え、大きな感動の涙物語も、数え切れぬ程お世話になって、いつも感謝で

平成 12 年 12 月 1 日、「めだかの学校」の校長を命ぜられ、2000 年の締めくくりをとのこと、重大な責任を感じています。6 年間の成果をと言うことになりましたが、劣等生の私ですから少々ものしかありませんが、今感じていることを書かせていただきます。

毎日のように暗いニュースが飛び込んできます。文化生活を求め、新しいものを追って古い大切なものを大きく失っているのではないかと思います。高い知識も大事ではありませんが、人と人との連携、一人では生きられないこと、協調性、少しは我慢することや、待つこと、老人や障害者をも受け入れの出来る思いやりの心と素朴な人情あることなど、横の発達とか言われていますが、今考える時だと思えます。また遊びや手伝いにもしっかりと汗をかいてやることを子供の時から体験させること、都会の良さ、農村の良さとか、地域の歴史や祭り文化も含めて気候風土をよく知ったうえで、自分の住んでいるところに誇りがもてるような生き方を真剣に考え、取り組んでいく必要があるのではないかと思います。先ずは大人が大きく反省して 21 世紀に向かうことだと思えますが、私だけのことでしようか。

今ある事、大人が反省して 21 世紀へ

めだかの学校伝言板

——第 30 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日／平成 12 年 12 月 1 日（金）6:20PM——

校長／関 京子／教頭／伊藤英雄

用務員／徳増兼弘

給食係／石野省三・川島安一・高橋俊光

鈴木正士・湯浅明美・大谷一代

佐野文子・佐藤律子・尾上美智子

渡辺ミツ子（チーフ）

※お手伝いできる方は、当日 PM4:00 に学舎に来てください。以降でも結構です。

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山 1737-286

いなさ自然休養村「くつきくさ」内

TEL 053-543-0321（開校日のみ）

受付／赤田順子・寺田悦子・藤森照明

服部守孝（後見人）

<時間割>

—めだかはめだか、みんな違って、みんないい—

2000 年。“あと 726 時間の“めだか”のシンポ”

『シンポ？しんぽ？進歩？！ふりかえってみても…
進歩自由夢？！』

全員提出のテーマの中から、クジ引きで 3 点を決めて
討論しあいます

珍テーマ、迷テーマ、正直テーマ…あなたならどんな
テーマでやりたいですか？

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

『長崎がらがらメダカ日記』

8月23日(水)、晴れ。

朝8時に家を出て、青森空港から羽田経由で長崎へ向かう。第13回地域づくり全国交流研修会長崎大会参加のためである。夕方4時長崎駅前のホテルに着き、すぐに市内散策に出かける。オランダ坂を過ってグラバー亭に向かう予定が、途中の案内板に惑わされ迷ってしまう。近くのカメラ屋で道を尋ねたら、大浦地区のエリアマップをくれた。孔子廟を見学し、新地中華街をぬけ、大浦天主堂で合掌し、グラバー園に到着である。坂道ばかりで歩き疲れていたメダカには、動く歩道は楽チンである。帰りの下り坂、名物のサボンのソフトクリームを買い、食べながらタクシーで駅に急いだ。午後6時、むらさき夜の遊覧というバスガイド付の観光バスが発車オライ！。平和公園へつ甲細工見学→眼鏡橋を巡って長崎東急ホテルで夕食であった。長崎チャンボンと皿うどん、生ビールで気分は最高。ほろ酔い気分で一千万ドルの夜景を見ながら稲佐山々頂へロープウェイで登る。夜はホテルで缶ビールで、一人反省会である。

8月24日(木)、晴れ。

朝食を8時に済ませ、一回百円のチンチン電車に乗り原爆資料館に向かう。爆撃された時間で止まっている柱時計を見て、これが事実なのだと思う。長崎から大村市へ電車で着くと、実行委員の方

が出迎えてくれ送迎バスで、主会場のシーハットにおむらに向かう。受付を済ませ会場に入ると、歓迎レセプションの龍踊りが爆竹を共に乱舞されていた。全国の地域づくりの花が咲きそろいます。八月長崎で21世紀に伝えたい。地域づくりをメインテーマに開会セレモニーが始まった。事例発表では、「連携と交流のみち 長崎街道」として長崎街道まちづくり協議会事務局長の古賀方子さんと、「ボランティアと被災地支援」としてNPO法人格を取得した島原ボランティア協議会の高木浩徳さんの二人がした。その後8つの分科会に分かれて討論が行われた。報告会の後、合同交流会が長崎インターナショナルホテルで行われたのだが、乾杯まで廊下や会場で長らく待たされたり、アトラクションとして吹奏楽団の演奏には話にならなかった。抽選会やクイズもどうかと思った。二次会は和歌山と山形の女性グループとカクテル討論会であった。今夜も缶ビールで一人反省会。

8月25日(金)、晴れ。

朝9時、ホテルをバスで出発。長崎街道大村宿、とりかぶと自然学校、おむら夢ファーム、ハウステンボス環境施設を視察したのだが、夢ファームでの焼肉にビールでの歓談が一番楽しかった。

8月26日(土)、晴れ、秋田はくもり。

夕方7時帰宅する。いつものようにプロ野球のテレビ観戦をしている一匹のメダカが缶ビールを飲んでいた。次は一月、高知で。

(秋田の不登校メダカ。奈良務)

琵琶を聞くメダカ

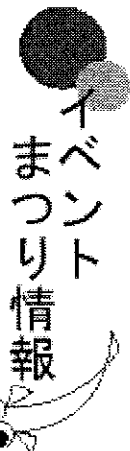
さる9月末、大東町北部の入山瀬で「宝寿庵」で琵琶を楽しむ会」が開かれ、スタッフとしてまた観客として多くのメダカが参加した。この宝寿庵という小さな庵は、メダカの生徒である明石ふさ子さんが生まれ育った思い出の深いお寺である。御両親が亡くなられるなどして住職が不在となつてから長い間、地元の方々懸念に守つて来てくれた。こうした地元の方々感謝したいという気持ちと、「いままで参加するだけのまちづくりでしたが、私もなにか」という思いが高じて、この企画は動き出した。周辺のメダカ達が相談にのりながら地元の方々の応援の輪もどんどん広がり、いつの間にか多くの出店や文化展に交流会も加わることになった。

予報のとおり、昼前から雨が落ち始めたお寺の周りでは、地元の方々メダカ達など多くのスタッフが、演奏会場の庵とその前庭の準備や出店の支度などをおしやべりをしながら楽しそうに進める。少し離れた公民館の料理室では、地元メダカなどの大勢の女性陣が交流会のお料理とスタッフの昼食づくりに忙しく動き回っていた。私達ほか2名のソバに憑かれていたメダカも、交流会に備えてざるそばにして七〇枚ほどのソバを打った。

一時はかなり強く降っていた雨も、かがり火が点火され演奏会が始まる頃には不思議とやんだ。ふるさとへの思い、生家を大切に生きてくれた方々への感謝に満ちた明石さんのあいさつの後、琵琶の製作家で演奏家の大橋さんが登場した。大橋さんはあるとき琵琶の音に感動し、琵琶の製作と演奏を始められ、その作品はメトロポリタン美術館に所蔵されるほどの方である。そんな方が近くの菊川町

に在住されているのも凄いが、その大橋さんをお招きしてしまつた明石さんも凄い。初めて聞く琵琶の音は、想像していたよりも小さめであったが、大橋さんの語りと演奏は、かがり火に浮かび上がる古びた庵と相まって、正しく幽玄の世界を創り出してくれた。「彰義隊」と「青葉の笛」の二曲が演奏された。琵琶は、平家物語の時代のもと思つていたが、古いその時代から洋楽全盛の現在まで脈々と生き続けている文化であることを教えてくれた。演奏会の後は、一〇〇人は優に越えていたと思われる大交流会が開かれ、地元の方々も私達も冠婚葬祭でもなく村のお日待ちでもない、かつてない大宴会を楽しませて頂いた。

ほとんどお金をかけない手作りの取り組みであったが、ふるさと入山瀬への思いと琵琶というレベルの高い文化を結びつけて、多くの人を楽しませ、人と人の出会いを生み出してくれた。大変贅沢な時間を与えてくれた明石さんと関係の方々に本当に感謝します。(なんでもあり農園)小作人の松)



まったり情報

静岡県地域づくり

団体合同フォーラム開催
地域づくり2000年の節目。今までの10年、これからの10年。テーマは参加と連携。

静岡県内には活発な地域づくりを行う団体が多く、これまで行政も地域づくり活動に対して積極的な支援を行ってきた。

ました。「しずおか未来づくりネットワーク」(「未来づくり学士会」)「静岡地域学芸」は、行政の支援を受け静岡県各地でさまざまな地域づくり活動をしています。20世紀末に、私たちを取り巻く環境も激しく変化し、地域づくりに対する考え方や手法も新しい時代に向けて転換期を迎えようとしています。

そこで2000年を節目として、静岡県内で地域づくりに取り込む人々が一堂に集まり、これまでの活動を検証しつつ、これからの取り組みについて議論し、一つの方向性を見出し、次なるステップへのきっかけとすることを目指しています。

開催日時/平成12年11月20日(月)
10:00~17:30。会場/静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」6階交流ホール。(JR東静岡駅下車)。
テーマ/参加と連携。主催/静岡県地域づくり団体合同フォーラム実行委員会。参加費/無料。(交流会費3000円。10:00~20:00)。

プログラム/9:30受付。10:00開会。第一部/10:15知事講和「静岡県が期待する地域づくり団体とは」(今後の地域づくり団体と県との「協働」の考え方を聞く/石川嘉延県知事。11:00地域づくり団体の活動報告。第二部/12:00分科会。昼食をとりながら分科会開始①脱フォーラム!現場に出よう!地域づくり団体再生論②もつと情報交換を!ヨコのつながりを考えよう。(座長・榊原幸雄メダカ)③市民団体と行政とのパートナーシップを築く。④つづけることの意味とその手だて。(座長・北島享メダカ)⑤NPO法人化をどう捉え、どう使うか。⑥21世紀の中山間地域のいきる路。⑦「まちなか」の地域づくり⑧われら地域づ

くり団体はどうする。⑨行政職員、行政市民のここだけの話。9つの分科会に分かれて議論する。14:30分科会報告。(全体会)。第三部/15:00公開討論会「しずおかの地域づくりって何・地域づくりの原点を検証」コーディネーター小泉祐一郎。パネラー①鈴木武史メダカ②榊原幸雄メダカ③高木敦子④八木敏郎。コメンテーター6人。花井孝、小島陸雄メダカ。しずおかの地域づくりに対して様々の立場の人が繰り広げる熱い激論トークバトル。会場へも飛ばよ。16:45静岡地域学芸からの研究提案。17:10総括閉会。片付け作業も協働参画(全員)。第四部/18:00しずおか地域づくり大交流会。20:00終了。

なんとこの合同フォーラムの実行委員会には、実行委員長に鈴木武史、副実行委員長には元メダカの山内秀彦、山本六三。委員には榊原幸雄、本島慎一郎、北島享、小嶋良之、元メダカの横山忠志、大河内昭宏、参与に花井孝、小嶋陸雄ら生徒でありながら一度も出席できなかった人もいるが、それぞれの地域づくり団体のリーダー格の人が「めだかの学校」に数多く在席しているか出席していたことを物語っている。

なお、このフォーラムへの参加については、開催案内を同封しますので、個人で直接事務局へ申し込んでください。参加申込みに関する問い合わせは、054・221・2057静岡県総務部地域振興室・担当飯田さんまで。

●第12回いなさ人形劇まつり

ふるさと創生事業の一環としてはじめて人形劇まつりも、すっかり定着して今年には第12回。11月24日(金)~26日(日)

の3日間、引佐町の多目的研修センター、健康文化センター、総合体育館、開明座、野外劇場などで行われる。

京都・人形劇団京芸、名古屋・むすび座、兵庫・糸あやつり人形劇団みのむしなどプロの人形劇団22、県内のアマチュア劇団など人形劇から物産市まで賑やかに繰り広げられる。入場料も安い。大人六百円、子ども四百円。いつもどこも満席なので、はやめに買っておくといい。問い合わせは、いなさ人形劇まつり実行委員会。〒431-2295引佐郡引佐町井伊谷六一六・五引佐町役場企画商工観光課〇五三・五四二・一一一三 FAX〇五三・五四二・二二二六。

キツカケは、引佐町商工観光課課長だった伊藤茂男メダカと、静岡県人形劇協会相談役だった榊原幸雄メダカ。一本の電話ではじまって、静岡新聞を51歳でやめて、引佐町へ居つく羽目になつてしまった。今は後輩にまかせて隠居ぎみ。

12月になれば20世紀最後と、各地でいろいろな行事が繰り広げられる。お互いに情報交換しあつて、泳ぎあいましよう。21世紀には、それぞれの地域においても伝統芸能が新年早々に行われる。めだかの生徒がかかわりもつ祭りも多い。おトソ気分でおかけるのもオツなもの。あなたからの情報が生きる。乞発信を。

メダカ春秋

諏訪湖周遊

昨日、諏訪湖マラソンを走ってきた。広く見えるが一周で十六キロ程しかない。それに、その湖畔の道がすいぶん楽しい。昔の鄙びたイメージはまったく無く、

カリンや柳の大木などの並木、瀟洒な住宅、それに意外に都会的な沿道の応援も走っていて嬉しい。絹織物のエンペラー長倉財閥の寄贈したギリシヤ風の大浴場や美術館などは、諏訪を訪ねるに足る歴史遺産だ。また、湖は大天竜川の源であり、浜口橋がその出発点になっているのも、下流に住む私達にとり何故か神聖な気分になる。シーズンオフのこのマラソンは、七千もの人たちが参加し、お祭りのような雰囲気と人数の力を実感する大会である。

何故、こんなに沢山の人が走るのだろうか。私の場合、仲間がいて心身ともに快適になれる。そして達成感がある。目標を設定して着実にそれをやり遂げる。それを仲間と励ましあう。人と人と共に生きる。マラソンにはそんな原点がある。だから、苦しければ苦しいほど止められない。目標が大きければ大きいほど、執拗で計画的になれる。そんな訳で百キロウルトラマラソンを走り、今は静岡団体の協賛競技のトライアスロン走走を目指している。先日は、小笠山の下り坂で猛スピードのまま落車。ガードレールが五十センチほど回んだが、私のほうは肋骨一本のひびきですんだ。女房殿は、年甲斐もないと言うが決して諦めない。これが俺の生き方だと信じて疑わない。

実はメダカの学校は、そんな人生の道場である。目標を見つけて出して、ある時は西に、又ある時は東に北に遠征する。そんな面白人間と面白人間を目標とする仲間を塾なのだ。

福田町 川島安

☆第30回校長の関京子さん率いる信州は天竜村柳餅生産者組合が、農林水産大臣賞を受賞しました。山あいの小さな村落の高齢のご婦人が永年にわたって、地域の産物である柚子、梅、しそ、ふき、桑、笹などを使った食品加工生産活動が認められていた賞です。実際に関さん宅へお伺いしてみて分かることですが、京子さん、福盛さんご夫婦の並々ならぬご努力があったればこそのものであります。大臣賞をいただいたことで益々ご多忙になるでしょう。お身体にはくれぐれもご自愛ください。おめでとございませう。

☆10月14日に言い出しつべの武井紀夫さんご夫妻が事務局であるリンデンパウムに寄ってくれました。体調をくずして、今は東京の娘さんのところで充電を兼ねながらハビリーにいらしてのこと。万歩計を腰につけて深大寺の周囲を散策したり、庭いじりをしたり、時には図書館に寄って本を借り、読んでは感動しているのを見つけて「めだかの学校」に思いを寄せたりと日々がんばっているとのこと。まだ時間はかかると思いますが、元気に登校してくれることが楽しみです。がんばれ武井さん。待つてるよ。まだまだ「めだかの学校」はつづく。焦らずに。

☆石の彫刻家の耳塚信博メダカ。このころは石の彫刻より絵の方が面白いのか、セッセと絵を書いている。先日頼んでおいたネコの絵をもってきてくれた。いろいろポーズをとったネコの絵がいっぱい。こんどリンデンパウムギャラリーで、ネコの絵だけを集めた「ネコのミミちゃん展」をやるうーと意気投合。10月下旬より事務局のリンデンパウムでやることになった。ホント、この男、やさしい絵を書く。顔に似合ってる……

☆めだかの学校が、リゾート通信社発行の「かがり火」2000年秋号に四頁にわたって掲載された。秋号には、第29回の授業風景、給食の時間など写真入りで掲載されています。その内容には、「めだかの学校」の設立経緯や、建学の精神などがこと細やかに書かれています。参考になりますので、菅原敬一社長に了解していただいて、「コピー」にて「とよ」と共に送ります。なお「かがり火」の地方通信委員として何人かの生徒もいます。今回は、取材した菅原敬一さんも生徒になってしまいました。なお、10冊ほど購入しますので、希望者は事務局まで。有料です。

◆「全国市民生涯学習ネットワーク」設立の呼びかけが届きました。

世話人代表は、特定非営利活動法人東京生涯学習ネットワーク会長菅原範人（東京都保谷市新町五一八一七）です。

設立総会は、平成12年11月23日（祭）PM1時～2時。場所は、八王子市生涯学習センター1階52号エイトホーム（東京都八王子市東町五番六号）。そのあと設立記念フォーラムが開かれ、テーマ「市民と行政のパートナーシップ」基調講演「市民が主役の生涯学習」瀬沼克彰氏（桜美林大教授）。

設立理念、会則案の目的（第2条）で、本会は各地域において、市民に対していつまでも自由に参加できる学習機会を提案している全国の学習団体が一同に会して、各団体が行う活動・事業の連携・情報の交換・ネットワーク化を図り、各団体活動の活性化と、市民の生涯学習意欲の高揚に寄与すると共に、健康で豊かな文化的福祉社会の構築に貢献することを目的とする。

とあります。ちなみに、会費は正会員（生涯学習者）として活動している市民団体）三〇〇〇円、賛助会員一〇〇〇〇円です。興味のある方は、〇四二二五二〇九〇八。FAX〇四二二五三三八二二。東京生涯学習ネットワーク菅原範人さんへ。

◆三遠南信地域情報誌「Region」40歳からの若者たちへ「めだかの学校」の出会いが生まれましました。

照井泰子めだかと池谷裕めだかが意気投合し三遠南信地域の人を巻き込んだの創刊となりました。三遠南信に関連するめだかの生徒もぞくぞく登場してきます。ご期待下さい。定期購読3000円（年4回送料・消費税込み）書店でも取り扱い中（消費税込み5000円）お問い合わせは照井まで（053・435・4133）。

◆事務局だより

●第29回めだかの学校では、去りゆく夏を惜しみながら「星に願いを！〜」と、星空のもと野外で願いごとをする予定だったが、あいにくの天候で、楽夢亭での願いをなつた。ひとりひとり前に出て、それぞれが50文字以内にとめた願いごとを語りかけた。真面目に幼き頃の夢を願った人、ある想いを来世に願った人、50文字を遠にはずれて語る人、踊りながら語る人、いやはや夢と……をやである。それでこそ楽し。それにしては、私たちが先に、直接に願いごとを叶えてもらおうと旅立つ山形尚さんのズルイよね。でも山形さんのこと、私たちが願うことをまとめて、お星さまと交渉しているかも。山形さんを知らない人もいるかもしれないね。第25回の開校日、21世紀に残したい歌「のとき一番はじめに「赤とんぼ」の歌を歌った。自称スレキレトシボさんです。みんなが冥福を祈りました。

●めだかの学校も今風の若者になったのか給食当番の紹介や「いただきます」を言わないうちに飲食する生徒、私語厳禁の時間にペラペラと喋っている生徒、タガがゆるんだのか、お客様が増えたのか困ったものです。つい怒鳴ってしまいました。喋るときは、カンカンガクガクと喋り合う。耳を傾けなければならぬときは、私語を慎み聞く。これはめだかの学校の精神です。ゴミの持ち帰りも然りです。一部の生徒のために皆んなが不愉快な思いをしないよう、ひとりひとりが自己啓発と自己実現に努めて欲しいものです。

●「テーマ」全員提出です。20世紀も余すところ二ヶ月。全てやっただいぶやり残してしまつた。後悔だらけ。という生徒。「20世紀も21世紀も単なる暦の区分け、日々の暮らしは何んら変わることなし」という生徒もいるでしょう。思いはどうであれ皆同じように21世紀へいき

ます。第30回は20世紀最後の授業、関京子校長は欠席でしたが、10月16日に伊藤英雄教頭と数人の職員で第30回の授業内容などについて話しあいました。今世紀最後の授業でもあり、みんなが喋れるものにしてしよう。テーマを全員提出してもらつて、その中からクジ引きで3点を選んで、そのことについて全体で、班別で、討論しよう。シンポジウムのような形態のものをして。ということから、

「めだかはめだか、みんな違つて、みんないい」
2000年「あと726時間の「めだか」のシンボ」「シンボ？しんぼ？進歩？！ふりかえってみても……進歩自由夢？！」
あなたならどんなテーマで討論したいですか？。珍テーマ、迷テーマ、正直テーマ、なんでもいいんです。おもしろおかしく、時には真剣に……最後にちよつと結び目をつけて「21世紀へ行きましよう」。

締切は11月25日（土）。同封のハガキに、テーマとコメントと出席の有無をつけて事務局まで送つて下さい。

■8期の継続手続きを！
8期は12年9月1日から13年8月31日までです。継続生でまだ手続きがなされていない人は、申込書を同封いたしますので、継続手続きを至急済ませてください。手続きをしないと、自動退学となります。ご注意ください。

■各地のたよりの掲載について
各地でいろいろの催事があると思います。次回は発行日は、2月1日です。ので、1月20日までに事務局又はエヌビー静岡企画照井泰子あてFAXして下さい。

FAX 053・435・3630